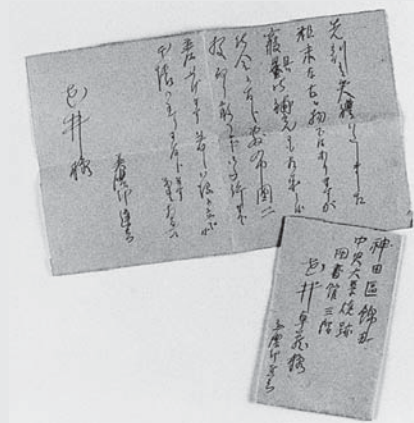


## 美濃部達吉の震災見舞い



1923（大正12）年9月、関東大震災で本学は図書館と増築校舎を残してすべてを焼失した。この時、東京市街の3分の2が焼失し、罹災者は340万人に及んだという。

当時貴族院議員で、本学教授でもあった花井卓蔵も自宅を焼失し、焼け跡の図書館に寝起きしていた。そこへ美濃部達吉が敷布団2枚を見舞いに届けてきた。その時の書簡が残されている。

「神田区錦町 中央大学焼跡 図書館三階 花井卓蔵様 美濃部達吉」の表書きのある封書は、「先刻は失礼いたしました。粗末な古る物ではありますが寝具御補充にも相成らば仕合と存じ敷布団二枚取り敢へずお手許まで差上げます。若し御役に立てば本懐の至りに存じます」との内容であった。

東京帝国大学や東京商科大学の教授を務めていた美濃部は、すでに明治期から本学の憲法講座を担当していたが、彼の回想によれば、両者の間には「念五会」という会で私的な酒の上での付き合いが、すでに10年ほど続いていたようである。